

平成27年第9回庄原市教育委員会 会議録 【秘密会】

【午後2時15分～午後6時50分】

教育長 ただ今から会議を非公開とする。
 昨年度と同様に委員の発言が特定されないことを条件に後日議事録を公開することについてお諮りする。よろしいか。

全員 よい

教育長 それでは議事録を公開するということでよろしくお願ひしたい。

 日程第4、議案第47号「平成28年度使用中学校用教科用図書の採択について」を議題とする。事務局より議案の説明をお願いする。

事務局 議案第47号「平成28年度使用中学校用教科用図書の採択について」関係法および関係規則に基づき、教育委員会のご決定をいただきたい。

 お手元の資料、調査結果の答申により、種目ごとに説明させていただきたい。これからの提案は、教科書選定委員会で協議された結果をもとに説明する。

 最初に国語。「単元・教材の学習目標の提示や基礎的な言語の定着に向けた語句の示し方も的確であり、生徒が主体的かつ効果的に学習に取り組むことができる。また、単元の配置と教材の分量も適切であり、「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域の力をバランスよく身に付けることができ、さらには言語活動も充実しており、言葉の力、思考力、表現力の育成を図ることができる。以上の理由で、総合的に判断して光村図書が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会が選定した国語の教科書は光村図書を案としている。このことも含め、意見を願ひする。

○ 光村図書はいろいろな教材をずいぶん豊富に様々な文学的な意味をもって取り上げている。写真や絵がすごく些細だが、全体的に5社を比較したときには、写真や絵が言葉の想像を膨らませるという意味において、光村図書がバランス的にいいと思う。また、中学校2年生の教材で5社全て「走れメロス」を取り上げているので、「走れメロス」に注目した。私たちが中学生時代から取り上げられている教材で、これにどういう絵を載せるかでイメージがものすごく変わる。イタリアのシラックスという場所だが、光村図書は太田大八の絵を使っている。太田大八の絵によって、イメージを膨らませることができる。学校図書だけ絵がなかった。75年経った今でもこれだけの情景と心情の描写をうまく取り上げられている題材なので、とても絵は大切だと思う。その中で、とても物語の雰囲気を出していると思ったのが三省堂。こちらは、全面にいろいろな形で絵が配してあり、表情も少しアニメのような雰囲気を醸し出している。

 すべてについての目標の示し方では、言葉を吟味した人間の内面と行動に対して学ぶということで、東京書籍と学校図書については共感する部分がある。

 言語活動の充実という観点では、読書の情報活用ということを見たとき、各社いろいろな部分に本が取り上げられている。本の題名と著者名だけを取り上げられて

いるものが多い中で、東京書籍は、うまくその単元に合う、例えば、随筆のところだと随筆のようなもの、歴史的なものは歴史的なものという形で、とても単元に合う本を300種類くらい取り上げている。

また、教育出版も興味をそそる本の内容説明がある。

教育長

他にどうか。

○

「走れメロス」について言えば、教科書によって描写を味わう東京書籍。言葉を吟味して人間の内面について考える。

三省堂は読みを深め合う、読むことを中心に。

教育出版は考えを交流するというか、意見を出して交流するということへ力を入れている。

光村図書は表現、自分の経験と重ねながら、これは多少内面的なことと思う。

言語活動のところで学年ごとに領域ごとのページ数を書いてある。それを見ると、どちらかというとバランスよくというのは当然のことだが、書くということは、割と考えないと書けないので大事である。光村図書は書くことには力を入れている。読むことに大変力を入れているのが学校図書。やはり教科書に特色があるのかと思って見た。他にも庄原市としては「平家物語」はどうしても気になる。また、「坊っちゃん」の扱いをどうしているのか、比較してみているいろいろ思った。光村図書で言えば課題解決へ向けての取り組みや考え方が丁寧に書いてあるという気がした。

教育長

他にはどうか。

○

私が注目したのは教育出版と東京書籍である。教育出版は文学的な作品が多いということで、特徴的かなと思った。作品数も多く、まず戦争とかそういう時代背景にこだわっているところがあるのが1つと、「敦盛の最期」というのが教育出版と東京書籍には入っている。これは庄原市とも縁が深いので、ぜひ私はここにこだわりたいと思った。

教育出版のよいところは「ことばの自習室」というのがあって、たくさんの写真とコメント入りで本の紹介がされているところ。東京書籍は論説や小説などのジャンルごとに本の紹介がされているのが大変特徴的で、分かりやすく本が紹介されていてよいと思った。

東京書籍でよかったのは手引きで子供に考えさせる構成であるということ。池上さんやチャーホフの作品も取り上げられていて、そういったところは中学生に読ませたいと思った。

○

私も選定委員会が選定された光村図書は、写真もきれいで、印象がよくなっているし効果も大であると思う。また、そういったものを多く利用して目を引き、楽しい国語の世界の導入もよい。しかし、難解な文章「高瀬舟」が、はたして中3でどうなのかということも含めて、他社と比べた場合に、私は、光村図書はもっと身近な教材を挙げてもいいのではないか。1・2年は特にそう考える。総合的にみたと、今回は、光村図書は見送るべきだと思う。以下、各社について特徴的なことに触れてみる。

学校図書については、言葉の使い方も鋭いし、扱っている素材も見事で教材もよ

い。しかし目標の設定や古典作品に親しませるという点ではやや問題点があるし、各単元が弱い、意見文もテーマが少ない。言語活動がはたして豊かになるだろうかという構成も見られる。従って、力のある教員は楽しい授業を展開できると考えられ、レベルが高いというのが学校図書だと思う。それが庄原に馴染むか、ねらいに沿うことができるかという点は考えなくてはいいけない。とりわけ口語文語活用の対象表折込みは大変見づらいし使いづらいという点もマイナス点だと思う。

東京書籍は先ほどからあったように、そつがなく、確実な指導が期待でき、目標の一覧表も作っている。読むことの視点も十分クリアでき、「表現ニュースの見方を考えよう」は大変分かりやすく、取り組みもしやすい。本作りにしても子供たちにも学習し馴染みやすいという、東京書籍に私は大変高い評価をしている。

三省堂、これはもっとすばらしいのではないかという評価をしている。東京書籍よりも。なぜならば、まず目標の一覧を作っているということと、学習過程が唯一示されている。その中に思考ツールが入っている。とりわけ巻末に「考える広場」を設定して、読むものや読む視点を与えている。また、1年生で言うと、体験あるいは意見文の活動が工夫されて大変おもしろい文になっている。しかし、やや活動ばかりに走ってしまうという落とし穴もあるという点もあるが、指導すべき点をきちんと押さえるということもできるので、そこさえきちんとできれば東京書籍を上回っているのが三省堂ではないかと思う。先ほど太宰治の「走れメロス」のことを言われたが、私は挿絵についてそこまでの影響は考えていない。単元の後ろにある学習の手引きについては、三省堂の学習のやり方は非常に優れたものだと思う。以下、他の文章もそのようになっている。終わりのところが非常にいい構成ができていると思う。

教育出版は言葉の使い方、表現、コミュニケーションなども大変重視した教材を集めている。ただ、そのいくつを使えるだろうかということで、言葉を重く扱うあまりに紙面の工夫が足りないということも思った。終わったときに何を学んだのかということが不明で残るものがない文章が続いているのではないかという懸念がある。従って東京書籍か三省堂かを悩んでいるが、基本的には三省堂がいいのではないかと思う。ただ、今の庄原の「敦盛」や地域教材がどうか。東京書籍も悪くはない。しかし、三省堂の巻末を見ていただければ、今までにないパターンを出している。思考ツール、これは私は大いに評価すべき点だと思う。確実に教員が指導するから。光村図書は今回はやめた方がいいと思う。

- 光村図書は、教科書そのものの印刷・製本に失敗している。ページをめくるときに、キュッキュッと音がしてよろしくない。
- 三省堂は「学びの道しるべ」がおもしろい。
- 三省堂は、思考ツールをこういうふうやって、比較して考えてみようとか、今までにないものが出ている。しかし、東京書籍を否定するわけではない、中身そのものは東京書籍もいいと思う。
- 三省堂は初めてになるのか。
- 庄原市では今まで使ったことはないと思う。ただ、地域的に見ればいくつか使っている地域はある。

- 他市で使っているところはあるのか。
- 前回、国語で三省堂を使っている地域は、竹原、東広島、豊田郡である。
- 教育長 皆さんの意見は東京書籍の声と三省堂が挙がっているが、どうか。
- 私は三省堂がよいと思う。実際に東京書籍と三省堂どっちかなと迷った。中学校3年生で論語がどうかと思わないでもなかったが、あえてそういうものに触れるべきかとも思った。内容の面からでもある。
- 前回東京書籍を選んだのは地域で言えば、呉、廿日市、尾道である。
「敦盛」は東京書籍と三省堂、教育出版、学校図書にある。
- 東京書籍も三省堂も詳しく書いてあったような気がする。どちらかと言えば三省堂の方が「敦盛」は詳しかったかもしれない。
- 東京書籍は悪くない。否定するつもりはない。どちらか迷うのは迷ったが、特徴を言えば巻末にそういう思考ツールの進め方があったので、今までにないやり方だということから三省堂は特徴的である。
- 教育長 東京書籍か三省堂。どうするか。
- 東京書籍も使いやすい。学校から言えば。特に三省堂でないといけないということではなく、どちらかが選ばればよい。皆さんが総合的にみられ、東京書籍を支持されるのなら東京書籍でよい。
- 三省堂のちょっと残念な点が文学史の年表である。「走れメロス」が文学史に入っていたのは教育出版だけである。
- 教育長 総合的に見た場合に東京書籍という声が強いが、それでよろしいか。
学習の学び方からすれば、新しいものが入っているのが三省堂。中身の充実性から言えば、東京書籍がたくさん盛り込まれている。三省堂の手法が東京書籍に入っていれば一番よい。東京書籍はそつがなく、中身もよい。展開において工夫した指導もできる。
三省堂の巻末が捨て難い部分もあるが、総合的に、全体的にそつがなく指導ができるという観点から、東京書籍でよいか。
- 全員 よい。
- 教育長 国語は、東京書籍に決定する。

- 教育長 次に書写について検討する。事務局から説明をお願いします。
- 事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「3年間を通した目標と見通しを記載しており、各単元の目標も明確に示しているので、生徒が主体的に学習に取り組むことができる。また、単元・教材などの配分なども適切である。さらに日常生活で活用できる資料が充実しており、国語の教科書と関連付けた内容となっているので、実践的に学習することができる。以上の理由で、総合的に判断して光村図書が最も適している。」審議をお願いしたい。
- 教育長 選定委員会から光村図書という案が出ているが、意見をお願いします。
- 選定理由の中に、例えば筆やすずりや紙ということで光村図書を採択されていたと思うが、全ての書写の中にいろんな部分で多い少ないはあるが入っている。特に道

具の成り立ちということについては教育出版がかなり詳しく、中学校での学びにふさわしいものがある。全体の構成が分かりやすく、資料が豊富だと思ったのが、教育出版と東京書籍である。

- 日常生活との関連付けを重視しているのが教育出版と東京書籍である。教育出版は伝統や言語文化に関する内容を謳ったり、興味関心を高めるコラムや資料が多かったり、発展的な学習を各学年で設けたりしている。しかし気になったのが教育出版は「は」と「ほ」の区別をしていない。ひらがなの基本のところでは区別がないのがどれだけ意味があるのかわからないが、ちょっと気になった。教育出版は「は」と「ほ」の丸いところが同じである。こういう違いがあるとわざわざ説明してある社もある。

- 選定理由で光村図書を挙げられたよい点だが、文字や資料が充実している点やアルファベットや手紙の書き方など非常に整っている。しかし、光村図書より教育出版や東京書籍の内容がいいと思う。例えば、教育出版は先ほどあったように導入がきちんと整理されているし、書き方の基本がきちんとできている。さらに、楷書の導入が書いてあるのも教育出版だった。それからすずりのこと、歴史上の書類もあり、行書に関してもきちんとできている。ただ1点だけ他のところが工夫して入れているところで教育出版にないのは、願書である。願書があるかないかで決めることではないが、日常で願書というものはほとんどが書くものだから、その書き方があるのはよい。三省堂と教育出版にはなかった。しかし、教育出版は全体的にはよくまとまっており、子供の活動も要所に入れてある。

東京書籍もストーリーとしては非常にいい流れがあり、手紙の返事、願書等もきちんとできている。

学校図書の場合は書の文字がいいし、はっきりしている。よい点もあるが、トータルで言えば東京書籍か教育出版であると思う。どちらかといえば教育出版がよいと思う。

- 東京書籍は教科書のサイズが大きく見やすいこと、日本語の文字の発達と変化というのがあり興味を引くことなどがあり、東京書籍もよい。

教育長 書写は、教育出版と東京書籍の両方の意見があるが、総合的にまとまっている教育出版でよい。

全員 よい。

教育長 書写は、教育出版に決定する。

教育長 続いて社会科、地理的分野について検討する。事務局から説明をお願いする。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「写真や絵図、地図やグラフなどの資料を多く掲載し、生徒の興味・関心を高め、さらに深い内容への興味を引き出す工夫がされており、生徒が主体的に学習に取り組むことができる。発展的な学習に関する内容も充実しており、学習する上で中心となる視点を示しているため、学習を深めることができる。以上の理由で、総合的に判断して東京書籍が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会で東京書籍という案が出ているが、意見をお願いします。

○ 地理ということで、世界も今住んでいる場所も取り上げてしっかり見つめていきたいが、まずは全体的に主体的な学習に取り組む工夫ということで、どのように興味や関心を高める工夫ができていくかというところを見た。特に中国四国地方では過疎化対策について各社書いてあるが、これは様々な方面から取り組んでいかなくてはいけないことである。教育的なものや観光的なもの、いろいろなことを配慮しながらだが、残念ながら一番押したかった東京書籍はこれについての記述がなかった。他社は、中学生でもできることや中国地方で行われている様々なことが何ページかにわたって書いてあるような部分もある。ただ、交通網というのは、昔のままであるか、現在のものを載せているかで大きな差がある。東京書籍と日本文教出版にしか松江自動車道が載っていない。これからの産業を活性化するために、とても大きな位置付けになるものであるので、この2社しか道路が横断していなかったというのは大きいことだと思う。

○ 私も総合的には東京書籍がいいのではないかと思った。しかし、それぞれの教科書で工夫がされているところもあった。学習のまとめ方をきちんと分かりやすくしているのは日本文教出版と帝国。特に帝国は知識をきちんと分かりやすくまとめている。日本文教出版はチェック項目もあり、同じパターンで学習するようにステップ2でまたまとめる。さらに自由研究にも重きを置いているという要素があった。教育出版の場合もまとめやテスト形式はあった。東京書籍はトータルでよくまとまっている。ここは評価が分かれるところだと思うが、テーマごとのまとめは日本文教出版や帝国に比べたらやや分かりにくい。しかし、「深めよう」や「トライしよう」というのが次にきていて、そこでもっと勉強できるという要素があるわけで、そこを踏まえれば東京書籍がいいのではという考えである。選定理由にあった内容について同意見である。

それからこれはどういう意図があるか分からないが、内容構成のところで教育出版だけがアジアの次にアフリカをもってきている。あとはみなアジアの次はヨーロッパ。詳しくは分からないが、アフリカを先に考えて気候や地域などの特徴をもってきていると思った。

○ 注目したのは、東京書籍は写真が鮮明で資料が多い。「アクセス」のコーナーもいいと感じた。領土については過去や現状の詳しい説明が沖ノ鳥島も含めてあったが、現状説明に留まっているという気がした。エネルギーについては原発事故をきっかけに在り方などを載せている。原発や発電方法の特徴、課題を述べているが、資料活用と環境への配慮が必要だという言い方がされている。沖縄の土地利用については、基地問題も含めて議論が続いており、どちらかといえば現状はこうですという示し方かなと思った。被爆についてもドームの写真や被害状況の地図や平和祈念式典など丁寧に書いてあったと思う。

他に注目したのが帝国だが、写真も鮮明であると思った。領土についても詳しく過去の経緯と現状、日本の取り組み等も紹介してあった。災害について、様々な自然災害を扱っていたが、災害に対する備えや避難方法を詳しく述べてあった。原発につ

いては、事故をきっかけに見直されるようになった再生可能エネルギーの利用で発電していくことに期待がもたれるという言い方がしてあった。中国地方のことに關しては、観光や地域おこしの様子は書いてあったが、地域の活性化ということについては日本文教出版が少し詳しいかなという気がする。それから、ユネスコ無形文化財を示した日本の世界遺産、写真は小さいものが多かったが興味がわくと思った。領土については、経緯と現状と取り組みが示してあったが、あまり詳しくはなかった。

災害等については今説明した東京書籍が4ページ、帝国が6、日本文教出版が10。基本的には日本文教出版が一番多く触れているという感じがした。それから日本文教出版は原発の事故と再発、再生可能エネルギーについても原発に頼らないという意見があり、「今後冷静的に協議して国民的合意を得なければなりません。だから現状だけではなく、今後このことがいります。」と述べている。中国地方で言えば、日本文教出版が過疎化に対して地域の努力や地域活性化の取り組みについて示している。地理全体で言えば地図帳とこれは同じ方がいいと思うので、東京書籍か帝国だと思う。

教育長 地図のことも出たが、地図を選んだから地理はこっちとやると順番が変になるので、関連付けるかどうかともそこで議論する。

○ 私は同じ方がいいと思う。

教育長 先ほどの様々な意見を踏まえて、また、選定委員会の意見にあるように、主体的な学びに通じる工夫がされているということなどから、社会科、地理的分野は東京書籍でよいか。

全員 よい。

教育長 社会科、地理的分野は、東京書籍に決定する。

教育長 続いて社会科、歴史的分野について検討する。事務局から説明をお願いする。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「作業的・体験的な学習の事例が豊富で、生徒の多様な学び方を引き出す工夫がある。各章の終わりには、前の時代との比較により時代の特色をとらえるなど、多面的・多角的に考察させ、さらに、学習した用語の意味を自分の言葉で説明させることで学習の定着を図ることができる。また、掲載された資料も写真が多く取り入れられているなど、視覚的な面でも学習への興味・関心を高めることができる。以上の理由で、総合的に判断して東京書籍が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会は東京書籍の案を出している。意見をお願いする。

○ 歴史の本について、写真や図や絵が多く、それに加えて中学生たちが心をなびかせるのがアニメかなと感じた。キャラクターが吹き出しで課題を語るという形で、私にもすごくすっきりこの文章が分かった。ただ、清水はそれがなかったように思う。主体的に学習に取り組むことに着眼したときには、興味や関心を高める工夫で各社なかなかすごいと思うが、ぱっと見た感じではあるが、清水の内容量はかなり少ないと思う。それと、必ず外したくなかったのは広島を物語る上で原爆の犠牲者数である。原爆が落とされてから5年間というもので随分推移はするが、各社これだけ

曖昧なのかと思うぐらい驚いた。東京書籍は広島20万人、長崎14万人以上の死者。教育出版は広島20万人以上、長崎10万人以上で、育鵬社が広島14万から15万人、長崎7万から8万人、帝国が広島14万から20万人、長崎7万人、自由社には明記がない。日本文教出版は広島10数万人で長崎が7万人、清水は全ての合計で20数万人。確かに、このことだけで決めるということもないが、東北大震災で1万数千人の命が絶たれているという現状で、原爆の犠牲者数についてもちゃんとした数字を挙げてほしいと痛切に思った。そう思うと東京書籍は被害の大きさを物語っていると思う。

歴史年表については、巻末に全てあった。ただ、「日本の歩みと文化」や「日本と海外の交流」という欄があるものとなかったものがあり見やすさに差がある。帝国書院と日本文教出版だけ「日本と海外の交流」という枠が入れてある。あとは同じように朝鮮、中国、欧州のできごと、時代名、世界でのできごとが表記されていた。歴史年表を見ても、東京書籍がよいと感じた。

教育長 他にどうか。

○ 国際関係の文化交流等に関してどのように扱っているか、興味や関心を高める問いや資料がどうなのか、歴史を調べる手順や方法を示してあるか、歴史的なことでよく問題にされる南京問題についてどう書いてあるか、戦争の終わりが近いころに韓国なり中国なり多くの労働者を日本へ連れてきてとか、女性に対してどうだったのか、どのように触れているか、あるいは沖縄の問題なり原爆のことなどや、そこら辺を注目して見た。その中で、多数の中国人を労働者として日本へ、戦地でも働かされたという扱いをしているのは東京書籍だけである。南京問題では、軍人や市民や子供や一般人も多く殺されたという表現がしてあるところや、軍民という表現でよく分からないものもある。教科書によっていろいろなことのニュアンスが違って受け止められる内容もあり、例えば、神話と天皇を結び付けようという話もある。東京書籍はどちらかという資料も多いし、丁寧にしてあると感じた。学び舎の中身は焦点化されているかどうか分からないが、おもしろいなと思った。

○ 歴史的な事実がどう扱われているかということや扱っている人物のこと、作業的・体験的な活動や学習課題をどう設定してあるかということも注目して、授業展開をどうするかということで見たと。総合的に見たときには私も東京書籍が適当ではないかと思っている。主な理由としては、基礎・基本の定着や学習方法の工夫や内容の表記なども全般的に優れている。特に、生徒が見通しを立てるための調査や調べ学習の手順が明確に示されていると思う。また、見直すことについても触れてあり、まとめ方や振り返りに他者との比較や意見交換も取り入れてある。あるいは広がりや深まりのある考察を行うことができるようなことがある。さらに、歴史的な事象を複数の資料と関連付けて分析することや、考察する力を育成するための絵図や写真、資料など、分析する方法と具体例がたくさん示されていると感じた。

○ 市民の声にあることやまとめ方、内容なども注目して各社を見たが、批判されるような内容はなく、全体的にバランスもとれている感想をもった。

教育長 それでは、様々な意見は出たが、生徒が見通しをもち主体的に学ぶ工夫がされているなど、総合的にみて、社会科、歴史的分野は東京書籍でよいか。

- 全員 よい。
- 教育長 社会科、歴史的分野は東京書籍に決定する。
- 教育長 続いて社会科、公民的分野について検討する。事務局から説明をお願いする。
- 事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「絵図や写真、表・グラフや新聞記事の総数が最も多く、生徒の興味・関心を高めることに効果的である。発展的な学習に関する内容の記載や課題例数が最も多く、また、各単元に渡ってバランスよく配置されており、課題解決学習の充実に資する。以上の理由で、総合的に判断して日本文教出版が最適である。」審議をお願いしたい。
- 教育長 選定委員会は、日本文教出版を案として出している。意見を願う。
- 領土問題を項目的なものでどのように押えているかというところを見た。どこということとはなかなか言いづらい部分もある。先ほどの歴史の中でも言ったが、例えば領土をめぐる問題の現状を的確に詳しく書いてあるもの。例えば公正貿易などフェアトレードのようなものが明記されているもの。例えば北朝鮮の拉致問題について取り上げているところ。そして資源・エネルギーについて、再生可能なエネルギーについての表記がどれぐらいあるか。いろいろなポイントがあると思うが、公民と歴史が同じような状況で、東京書籍は領土問題についても現状、そして過去の新聞に出ていることなど、ありとあらゆる詳しいことが見開きのページにあり、これは同じように公民も歴史もあったが、随分正確な情報を発信しようという姿勢を見ることができた。また、先ほどのフェアトレードが出ているのが東京書籍だけ。清水と帝国は少しだけ辞典のような形でフェアトレードという文言が書いてあるぐらい。ただ、もっと詳しく、海外と日本でどのようなことが行われているという具体例は東京書籍のみ。拉致問題的なものはちょっと少なかったが、帝国が少し書いている。もう少し詳しく書いてあるのが、教育出版と育鵬社の2社。あとは自由社に一文だけ明記。再生エネルギーについては日本文教出版が4ページ、帝国が6ページ、東京書籍が4ページ、教育出版が2ページ、育鵬社2ページ、自由社は少しだけ、学び舎には入っていない。この姿勢という部分では、東京書籍はとても的確ではないか。
- 教育長 他にどうか。
- 今の考えで言うと日本文教出版よりも東京書籍が望ましいということか。
- はい。
- 東京書籍は「課題発見・解決学習」の視点でみても、コンビニエンスストアをしてはという部分もあったかと思う。「経営者になってみよう、そのためには」というのを考えさせ、そこだけで終わりかと思ったら、また後半にでてきて、今度は「コンビニエンスストアの弁当を企画しよう」とか、そういった「課題発見・解決学習」のつながりを意識しているのは東京書籍の工夫である。評価できる。
- 私も日本文教出版よりは東京書籍がいいと思っている。扱いの仕方も学習の進め方にしてもグローバル化時代に活躍することのできる人材を育成するという内容も豊富に掲載されている面があると思っている。前回より新しい内容であった「対立と合意」や「効率と公正」についても割と具体的に説明ができていると思った。一方で、

育鵬社もなかなかバランスよく書けていると思う。さっきあった帝国もよくまとまっていると思う。

教育長 選定委員会の案とは変わるが、社会科、公民的分野も東京書籍でよいか。
全員 よい。
教育長 社会科、公民的分野は東京書籍で決定する。

教育長 続いて地図について検討する。事務局から説明をお願いします。
事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「一般図と基本資料・テーマ資料と配列され、両面インデックスによって調べやすく、読図のポイントや考察の視点が吹き出しで随所にあることから、課題解決に向けて生徒が主体的に取り組むことができる。また、歴史や公民との関連や環境・国際理解等の学習に活用するための資料が充実している。以上の理由で、総合的に判断して東京書籍が最も適している。」ご審議をお願いします。

教育長 先ほど地理の教科書との関連も検討する必要があるのではといった意見も出ているので、そこも踏まえながら意見を願います。

○ 地図は、東京書籍は資料が多くて詳しいというのを感じた。資料も基本資料とテーマ資料という各地域でそういう示し方をしてあった。帝国書院は地域の特色、名称とか作物などについてより具体的なものを紹介してあったと思う。帝国書院は地図を見る目や、やってみようというのが有効だなという感じがした。地図ごとに色の使い方の凡例が示してあるのは帝国書院で、東京書籍にはなかったような気がする。この色は何を意味しているのか。黄色は市街地で田んぼは緑で畑は黄緑だというように地図ごとに示してあるからすぐ見られる。東京書籍にはそれがなかったように思う。最初には、土地の利用図ということでももちろん示してある。しかし、私は地図と地理の教科書は同じ方がいいと感じる。

教育長 他にどうか。

○ 東京書籍は小学校を検討したときよりか、少し工夫・改善している気がする。

○ そうですね。

○ 若い世代の感覚は東京書籍かもしれないが、内容等みたときは帝国書院である。

○ 私は地図は帝国書院です。それだけやっぱり地図には歴史があって、工夫化されている経緯があったり、例えば地図に西の端、東、南などがきちんと示してあったり、境目のところをきちんとしているのは帝国書院でしょう。東京書籍はあったのか。写真入りで国後から北方領土から竹島、尖閣というようなこと。要所要所の拡大図や災害プレートがきちんと示されているのは帝国書院。ただ、東京書籍もいろいろ工夫されているが、キャラクターが多すぎて分かりにくい面がある。帝国書院の方が写真がきちんと出ていると思った。

○ 東京書籍は、巻末の写真へ日本の北端、東端、西端、南端が書いてある。

○ 帝国書院の地図は色の濃淡が激しく、私は、東京書籍が落ち着いている感じがする。

○ 東京書籍の編集者を見たら、目の色覚関係の調査員が入っている。つまり、色に対

する配慮を東京書籍はしている。今まではなかったと思う。言われてみれば、そういう落ち着いた色にしているのかもしれない。

○ 見やすいというのはそこがあるのかもしれない。さっきの凡例について、東京書籍にはあるか。帝国書院はきちんと示してある。

○ 東京書籍が一番最初に示してある。

○ 地図ごとではないということか。地図ごとにあるのは帝国書院であると。

○ 帝国書院には毎回ある。

○ 地図の基本の大地や平地は帝国書院がよい。ただ、資料の帯グラフはどうか。小学校の場合は帝国書院がはるかによかった。東京書籍は、帝国書院にあったような地図の基本がない。あとはみな東京書籍がいいかなという思いもあるが、地図の大地や平野等の凡例が東京書籍が一番最初に1回きり出てくるだけだ。

○ 私の学生時代は覚えていた。大体この辺がこの色とか。

○ それはどこかで習っているから。東京書籍が何箇所か出ていればいいが、例えば九州地方に1回とか関東地方に1回とか。それが全く出ていないということになると、地図のパターンからすればどうなのかなと思う。やっぱり地図は帝国。要するに備えられていないといけない条件がきちんと入っているのが帝国。東京書籍は流行を追って目を引きやすいよう工夫はしているが、地図の面では帝国が一步進んでいる。先ほどあった地理の教科書と地図が変わってもいいのかという面も考えてどうか。これまでも地図と地理は結び付けて考えていない。

○ 出版社が違うということで、実際に現場で支障があるか。

教育長 どうか。

事務局 何年か前は大阪書籍と帝国書院だったことが長い期間あった。そのときに不都合があったという記憶はない。

○ いろいろな会社の資料を見る方がいいという考えもある。

○ 2社とも、開けたら最初に世界地図がある。東京書籍の地図は日本標準子午線を明記していない。東経135度のところに帝国書院は入っている。ところが東京書籍は入っていない。それは教えればいいが、基本の基本、日本の基準である。上の時計を見ると、帝国書院は1時間ごとに丁寧に書いてある。さらに、横へスライドすれば日本がどの位置へ来るか、ヨーロッパのページを開けていただくと分かるが、日本はこの位置の緯度だということが明記してある。そうすると大体日本との横関係が理解しやすい。もっと言えば、南半球へ持っていっても日本はこの位置へ来るというのが明記してあるのは帝国書院。そういうのがあれば指導がしやすい。教える側とすれば、そういう日本との位置関係が分かるものがあれば生徒をきちんと指導できる。

教育長 いろいろな観点で見ると、地図は帝国書院でよいか。

全員 よい。

教育長 地図は、帝国書院に決定する。

教育長 続いて数学について検討する。事務局から説明をお願いします。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「節末の『基本の問題』や章末の『章

の問題A（基本）』『章の問題B（応用）』『活用の問題』、巻末の『もっと数学しよう』での『巻末問題編』や『巻末課題編』など、学力の定着を図る工夫が多くある。また、他教科や日常生活に広げたり数学の内容を深めたりする知識・技能を活用する課題も多くあり、数学の有用性が実感できる内容となっている。学習内容に関連したイラストや写真も多くあり、生徒の興味・関心を高め、内容を理解しやすい構成となっている。以上の理由で、総合的に判断して東京書籍が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長

選定委員会から、東京書籍という案が出されている。意見をお願いします。

○

基礎基本の問題、それから応用活用の問題、中身はいずれも学ぶべきことはあるが、そういう問題数や構成を考えたときには、東京書籍が一番いいのではないかなと思っている。例えば学力調査の「面積と体積」の問題に課題がある。そうすると問題をどう解くかという視点で、各社がどう扱っているかということを見たときには、案外おもしろい視点があるのではないかな。具体的なことだが、「表面積」から入ると難しい、体積から入ると比較的入りやすいのではないかなという中で、東京書籍あるいは教育出版は「体積」から入っているということもあった。

啓林館は公式から入っていて、考える要素が少し薄いのではないかなということもあった。これは「面積、体積」の視点から。基本の問題、応用問題、活用に関する問題となったときに、問題数と共にノートの作り方も示してあり、考え方にも繋がる工夫があるのが東京書籍であった。

学校図書のいいところは、レポートのまとめ方とか発表の仕方などが詳しいことや共同学習のことが触れられている。

あるいは、大日本は本時を見開きの2ページとして分かりやすくしているという特徴はあるが、トータルでは東京書籍がいろいろ工夫されている。

本市や本県で課題のある「関数の問題」については、内容にあまり差はないが、問題数や構成の仕方では日本文教出版や東京書籍が優れている。構成的には教育出版も見やすい面があった。総合的に見たときには、東京書籍が深くしっかり考える要素が入っていていいのではないかなと思った。

○

数学嫌いになる初めの一步というか、1年生の「反比例」に着目して見た。その「反比例」のところを全体に同じように開いたときに、絵や図がとても工夫しており、章のはじめというのが図や写真を使ってとても分かりやすく展開されていた。さらによかったのが、章のまとめということでA問題B問題というのがあったり、小学校で学んだことを再現させたりするような場面が東京書籍に見受けられた。また、学びを繋げていくというところで、応用問題が様々な視点で豊富に取り上げられていた部分では啓林館もよかったと思うが、子供たちにインパクトを与えるという部分でも東京書籍が優れていると思った。

○

「正の数・負の数」をどう扱っているかとか、文字が入るころには文字が化け物に見えるという子供がいるぐらい、「文字式」の扱いが1つのポイントになると思う。次に「証明」をどのようにしていくかというのが、子供がちょっとしんどいところ。また、「三平方の定理」をどのように扱っていくかを比較しながら見た。それから、

学習するポイントを詳しく学習して練習するのか、ポイントを分かりやすく理解させた後、基礎の確認、応用活用の確認をするのか。その辺の問題というか振り返って力を伸ばしていくあたりはどう書いてあるのかを中心に見たが、確かに東京書籍は丁寧な指導で分かりやすく書いてあった。巻末が充実しているというか、もっと数学をしようと活用や補充がしっかりしてあるという気がした。あと、数研もしっかりしているという気がした。特にここでないといけない、あるいはここはだめというのはそれほど強くは感じなかったが、東京書籍は全体的にバランスがよい。

- 東京書籍で1つ気になっていたのは、「二次方程式」で「因数分解」が最後になっていることである。普通から考えると「因数分解」から先に学習していく。ところが、「因数分解」を一番最後にもってきているのは東京書籍と啓林館。そこだけ気になっていて、そこがそれでもいいのか、それは何か工夫すれば乗り越えられるのか、そのところだけ気になった。それを差し引いても東京書籍がいいと思うが、そのところはどちらがいいのか。大半は「因数分解」から入っている。特に授業に支障はないか。

事務局 「平方根」の単元が終わった後で「二次方程式」に入るので、先に「平方根」を使って「二次方程式」を解くという繋がりも考えられる。一般的には「因数分解」から先にやって、できなかつたら「平方根」を利用して「平方完成」にもっていくという流れが多いが、「因数分解」が苦手な生徒もいるので、授業で扱ったのが最近の「平方根」を使って二次方程式を解いて「平方完成」から公式を導く。公式に何でも当てはめて解くという生徒もいる。それをとにかく先にやっておいて、「因数分解」でも解けるという流れもあると考える。

- 「因数分解」がはるかにやりやすいと思う。

事務局 一般的にはそうだと思うが、「二次方程式」には「因数分解」ができるのとできないのと2種類あって、どちらにも対応でき、解く幅が一番広い方法が「平方完成」であり、「因数分解」では解く幅が狭まるという視点では適切と考える。

- どちらの方法もあるということか。それでも抵抗はないのか。

事務局 どんな「二次方程式」でも解けるのが「平方根」の方である。

- 分かった。

- ちょっと気になったのが教育出版で、巻末のところへ資料として数学で大切にしたい考え方というのがまとめてあった。そういうものは、巻末にまとめるというよりも、各々のところで付ける力だろうから、それは他社にはないかと注目した。教育出版は大体に基礎基本をぱっとやって、あと応用力というか考えさせるという内容がかなりあったように思う。力を伸ばす問題が多いというか、応用力が付くような流れかなという気がする。

教育長 皆さんの意見をまとめると、総合的に判断して東京書籍でよいか。

全員 よい。

教育長 数学は、東京書籍に決定する。

教育長 続いて理科について検討する。事務局から説明をお願いします。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「学習内容について、最も他教科との関連を明確にしている。別冊の補充問題は基礎・基本の確実な定着を図ることに活用でき、主体的な学びを目指すために有効な自由研究の説明も充実している。また、学んだことと日常生活の関連について説明したり話し合ったりするなどの言語活動の充実を図っている。以上の理由で、総合的に判断して啓林館が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会からは、啓林館という案が出たが、意見を願います。

○ 私も啓林館は理科の面は優れていると思っている。あと大日本、東京書籍、教育出版と見たときに、東京書籍もかなりいいものがあると思っている。しかし、いろいろな面で比較したときに、選定理由にもあったが、他教科との関連であるとか主体的な学びを目指す自由研究なども充実していると思う。ただ気になる点は、啓林館は発展問題が少ない。東京書籍と教育出版が数の面から言えば多く設定されている。また、啓林館は「凹レンズ」がない。これだけで決めるということはないが、気になるところが、啓林館には「凹レンズ」と「パスカルの原理」がない、大日本にもない。東京書籍と教育出版はある。これはどうなのかと。総合的に啓林館でよかろうと思うが「凹レンズ」と「パスカルの原理」を扱っていないのが残念。おそらく、必ず扱うことにはなっていないので、教科書会社の裁量となっていると思う。

○ 「凹レンズ」がないのは残念である。「電圧」や「電流」のところで同じページを開いたときに、何かに例えて分かりやすく子供たちに説明をする部分では、東京書籍や啓林館がとても分かりやすい。

○ 川の流れがあるのは東京書籍か。

○ 啓林館が分かりやすい。

○ 東京書籍は補充的な観察や実験が多い。あるいは、理科室の安全面の決まりも東京書籍がいい。いろいろな意見があるが、総合所見にもあったように、基礎基本の定着、学習方法の工夫、それから補充的な学習内容を別冊として準備してあるという点、さらには生徒自らが実験の手順や方法などを考えさせるという学習展開もできるということで、科学的な思考力、判断力を育てるために有効であるということから、啓林館が優れている。

教育長 総合的にみたとき、啓林館でよいか。

全員 よい。

教育長 理科は、啓林館に決定する。

教育長 続いて音楽（一般）について検討する。事務局から説明をお願いします。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「教材名の下に学習のポイントを2つずつ示すことにより、学習活動を明確にしている。また、創作では、表現につながる一連の学習過程を示すことにより、生徒が主体的に学習に取り組める工夫をしている。さらに、中学校で学習する用語や記号を見開き右ページ上に示し、楽典ページにまとめるなど、学習内容を分かりやすくしている。以上の理由で、総合的に判断して教育出版が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 音楽（一般）は2社である。どちらかということになる。意見を願う。

○ これまでは、どこを採択していたのか。

○ これまでは教育出版。それ以前は教育芸術社。

○ 教育出版は国歌の扱いが丁寧。「ふるさと」や「赤とんぼ」で色彩が豊かできれいだったのも教育出版。絵や写真がしっかり示してあって、作詞や作曲者のコメントや写真がより丁寧に示してあった。詳しくは言えないが、感覚が新鮮というか、若者向きかなという印象を受けた。

教育長 その他はどうか。

○ 私は逆だが、1つ1つの歌や曲の後に作者の方を詳しく、その場その場で教えているのは教育芸術社という気がした。

教育長 他にどうか。

○ 教育出版がいいと思った。全体的に見やすく子供が進んで活動しやすいように整理されていると思う。内容が丁寧で、先ほど言われた詳しい様子もあり分かりやすい。長い差込ページもある。和の音楽もページ数を割いてある。「国歌」「ふるさと」も美しく丁寧に紹介してあり、各学年の活動も教育出版は2から3の活動があり、教育芸術社は1つの活動。教材数や配列では、教育芸術社は歌唱、鑑賞が多く紹介されている。

教育出版は創作が1つ多いということが特徴だと思う。活動は、主体性の観点から言えば教育出版が1・2・3の順で思考力、判断力、表現力、学習活動のポイントが活かされていると思うが、教育芸術社はウォーミングアップ1・2、それからチャレンジ3ということで学習活動のヒントになっている。ポイントとヒントという使い分けをしてある。あとは「魔王」という曲があるが、これを比べてみたときも教育出版が丁寧に詳しくイメージが沸きやすく、解説もある。芸術社も注目してみようとか、発展の定義などの工夫はあるが、イメージという観点では教育出版が優れていると思った。先ほどあった巻頭の写真あるいは人の躍動感といった面でも教育出版。

○ 「荒城の月」を比較した場合、教育芸術社は滝廉太郎のページがあり、山田耕筰が変えた説明がある。教育出版は最初へ滝廉太郎の曲がしっかり載っていて、後のこんな歌を歌いましょうという資料として山田耕筰を載せている。教育出版は歌のこと、城のイメージ、遊ぶことまでイメージして詩を作った経緯なども説明している。

○ 両方とも扱いのウェイトや方法が違うということですね。

教育長 音楽（一般）は、これまでの意見を集約すると、教育出版でよいか。

全員 よい。

教育長 音楽（一般）は、教育出版に決定する。

教育長 続いて音楽（器楽合奏）について検討する。事務局から説明をお願いする。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「楽曲ごとに学習のポイントを示すことにより、学習活動を明確にしている。また、和楽器の学習のページが多く、箏や太鼓の奏法等を丁寧に示し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにしている。教材の分量も適切であり、様々な楽器を使って演奏する曲を掲載している。以上の理由で、

総合的に判断して教育出版が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 意見をお願いします。

○ ポイントは林英哲の写真があって名前も書いてある。庄原市出身の方である。

○ これは選定委員の方でも一般と器楽は一緒がいいという付け加えがあった。私も器楽は教育出版がいいと思う。もちろん今の林英哲の太鼓もあるが、構成や写真など両方を工夫しているところが見られる。極端に大きな差はなく、楽器ごとの長所や短所はあるが、丁寧さや分かりやすさは教育出版が優れていると思う。また説明の仕方も自らやってみようという展開があるのは教育出版。1点気になったのは、打楽器の紹介が教育芸術社には多いが、教育出版にはあまりない。太鼓は確かに林英哲があるからだと思うが、いわゆる一般の打楽器の紹介がない。この他、教育出版は日本の楽器と音楽は詳しく写真もあり、箏の演奏が2曲プラスされている。

○ 教育芸術社はアンサンブルセミナーというコーナーがあって、ここにはステップで伴奏が分かりやすい単元があった。これは、教育芸術社の優れているところ。

教育長 それでは、総合的にみたときは、音楽（器楽合奏）は教育出版でよいか。

全員 よい。

教育長 音楽（器楽合奏）は、教育出版に決定する。

教育長 続いて美術について検討する。事務局から説明をお願いします。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「題材における4観点に沿った学びのねらいを明確に示すことにより、生徒が主体的に取り組む工夫をしている。生活や社会における美術の働きを示す具体例が多岐にわたって数多く扱われており、生徒にとって親しみやすく指導もしやすいものとなっている。和紙で原寸大の作品を示し、また大型図版や折り込みページを活用するなどして、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。以上の理由で、総合的に判断して日本文教出版が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会は、日本文教出版を案としているが、意見をお願いします。

○ 3社を見比べたときに、美術の本ということで、大体似ている部分はあるが、何をどう配置をしてどのように子供たちに伝えるか、目から訴えるインパクトというか芸術性というか、デザイン的な配置がうまく好感がもてたのは光村図書。あとは、芸術センスのある方々が編集されているが、分かりやすいというよりも工夫なく載せているという感じがした。

教育長 他にどうか。

○ 全体的なところで言えば日本文教出版は大変作品が大きい。どちらかと言えば大判だが、それプラスいくらか大きいのがあって、子供にとってどうのなのか少し引かかる。中身について言えば日本文教出版は3分冊になっている。題材等の数が開隆堂48、光村図書67、日本文教出版86で、日本文教出版は版が大きいから大変多い。多いからいいと言うわけではないが。開隆堂は全体的にうまくまとめている感じがした。扱っている日本文化の中で光村図書は風神雷神が大変印象的で、優れた作品であるし注目したい。それから日本文教出版は仏像を扱っていた。観音像、これは大変魅力

がある。子供にとってはそうでないかもしれないし、大人だけかもしれないが。そういう点で言うと開隆堂はちょっと薄いかもしれない。そういう意味で言うと日本文教出版は感性というか内容も新鮮さがあって充実しているという印象を受けた。開隆堂は写実的で理論的というか、感性というよりは理論的な方が強いという気がした。

○ 3社あるが、それぞれ特徴を踏まえて意見を言う。

まず光村図書は懇切丁寧。それから、分かりやすい内容が手順よく、指導しやすい教科書となっている。子供に活動させる展開、力を引き出す、促す要素が内容の中に込められていると思った。またこういったことをさせたらよいというものが盛り込まれていて、例えばワークシートや活動場面の写真などがあって、イメージが非常に湧きやすくしてある。また、原寸大の扱いについても適切であり、ゴッホの扱いなどは特によかったと思う。さらに、1年では技法が最後にきちんとまとめてある。2・3年は身近な例が多く、将来の基礎の力も培えるし、さらに手紙あるいは訴え方などの面も非常によいという印象をもった。

開隆堂については日本美術の扱いがずば抜けてよいと思った。しかし、それ以外は今一歩である。子供の作品も多いが、突出しているものも多く、発想力ある作品もある。しかし、色使いは若干黄色系が多くて、けばけばしい感じがしている。あと2・3年は自分と向き合う、あるいは生涯教育という観点からはいい面もあると思った。作品が多いのが特徴だと思う。

日本文教出版は、図案、観音像や土器なども大きく扱ってはいるが、その先の展開が弱いと感じた。1年の後半に説明ばかりが載っているような感じである。和紙の工夫など多彩な作品の紹介もある。小さいものが多すぎるという感じがした。前回の教科書と比べてみても、どちらかという工夫があまりされてない。こういう言い方は失礼だが、何でもかんでも説明しておけばいいというまとめ方の傾向がある。現代アートのものも若干多いと感じた。以上のことをいろいろと考えてみたときには、断然、光村図書がいいと思った。

教育長 その他はどうか。

○ ゲルニカの作品の捉え方が、やはり光村図書の方がかなり文学的である。谷川俊太郎の作品をまず使っているのと、表紙をめくると題が載っていて、谷川俊太郎の文も載っている。こういった文学と結び付いたところがあり、やはり光村図書は美術だけに捉われないところがすごいと思う。最後も谷川俊太郎で終わっている。また、鳥獣人物戯画も国語の教科書に出てくるので、そういう点でも文学作品に結び付けた美術の捉え方をしているという印象がある。先ほど言われたように、日本文教出版は和紙を使った日本の芸術作品が秀でていると思うが、ゲルニカを見るとやはり光村図書がよいと思う。表紙にインパクトがあるのが光村図書なので、これを見たときに一本取られたなという感じがする。テーマごとにご当地キャラも出ており、子供にはとっつきやすいような内容もある。

教育長 各社いろいろな良さはあるが、分かりやすく、取り組みやすく、子供が意欲的に美術と向き合う期待ができる光村図書でよい。

全員 よい。
教育長 美術は、光村図書に決定する。

教育長 続いて保健体育について検討する。事務局から説明をお願いする。
事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「巻頭には生徒が興味を引くような写真等が掲載されており、内容についても分かりやすく『ポイント』マークを入れたり、他教科との関連も分かりやすくなっている。さらに、学年ごとに保健編と体育編の内容が掲載されており、生徒が学習内容の見通しをもつことができるとともに、章末には『確認の問題』を活用して言語活動を充実させることができる。以上の理由で、総合的に判断して東京書籍が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会は、東京書籍を案としているが、意見ををお願いする。

○ 中学生ということで、喫煙ということをどのように各社が挙げているかということで見比べてみた。教科書だけではなく、いろいろな資料や映像を先生たちは提示されると思うが、子供たちに健康に対する危険性やそういったものを訴えるためにも、もっとリアルな肺の写真は大切だと思った。そうして見ると、写真が出ているのは、東京書籍と大修館書店だが、東京書籍が子供たちによく分かるような、心に響く伝え方がしてあると思った。

○ 東京書籍は写真が興味付けの部分でいいと思ったのと、「やってみよう」「考えてみよう」「活かそう」という視点から、考える場面を多く設けていると感じた。章末の資料も多く、研究問題、活用問題、学習のまとめ、振り返りや生活に活かそうというものがあり、実習調査を丁寧にしてあってまとまりがいいと感じた。大日本は、ミニ知識やトピックスや資料が多く、よくまとまっているとは思ったが、ちょっと字数が多いかなという感じがした。学習のまとめはすっきりして充実していると思ったが、確認問題のようなものはなかった。

大修館は最初に、庄原市出身の水泳の金藤さんらしき写真があって、あつと思ったが名前も載っていないので定かではない。健康に貢献した日本人ということで、それが紹介してあったのがおもしろく、学習のまとめもすっきりして充実していたと思う。しかし、確認問題のようなものは入れてなかったと思う。他に、発展的な学習の記載はよかったと思う。

学研はいまひとつかなと思った。各ページの字や写真は鮮明で見やすい。章末に「探求しようよ!」や「章のまとめ」があるのがよかった。その他として学習の目標やウォームアップ、エクササイズ、活用しよう、情報、探求というのがいろいろしつかり考えて入れてあった。用語の確認や基礎の完成、活用の問題、生活への活用というものがあって、まとめがしっかり入れてあると思った。それから、実態調査や資料が多く入れてあると思った。

全体的には、どちらかというと東京書籍が印象的にはよかった。

○ 体育と保健という2つの視点がどちらの教科書にもあるが、その観点で見たとき、まず体育の視点で言うと、全般的に東京書籍が優れているし、スポーツを楽しみ、やってみたくなるというところへも繋げていると思った。

一方で、学研は体育の方面がやや劣っていると思った。特徴的なことと言えば、大日本だけが生涯スポーツという言葉を使っていた。そういった評価できる点があるかと思うが、反対に大修館は躍動感がなくて、やろうという雰囲気を感じられなかった。スポーツ全般にわたっても、例えばリレーのバトンの持ち方や渡し方がきちんとできているのは東京書籍だけ。体育の面では東京書籍。

保健でも総合的に見れば東京書籍がまとまっているのではないかな。テストも巻末にはきちんと作っている。ただ保健だけで言うと学研は大変丁寧で、テーマの工夫もあり、非常に優れていた。それから、大修館も専門的で資料が豊富。大日本は見やすく分かりやすい。しかし、内容はどちらかというと中学生向きというよりも、小学生に分かりやすい説明の仕方があった。また、中学生としてきちんと学習すべき点として、性の問題、インターネットの問題、ダイエット、災害、犯罪、先ほどあった酒やたばこということを見たときにも、総合的に東京書籍ではないかと感じた。

○ 私は、あってはならないことだが、心肺蘇生について、万が一のときにどうするかということが、どの教科書にどのように書いてあるか見た。全部、いまだに胸骨圧迫の後に気道確保と人工呼吸を書いている。これは今ほとんどやらない。やったところで気道確保が難しく、人工呼吸をして感染症をうつされてもいけない。学研だけが、シートの用意ができたなら気道確保の上で、人工呼吸しなさいと書いてあるが、今は一般的に胸骨圧迫だけである。最新の内容が揃ってなく、どれもみな一緒かなという気がする。比較して親切に書いてあるのは学研だけで、ちゃんと感染を防ぐことができれば人工呼吸をしようと思った。

○ 確かに保健の分野は学研が優れている。大修館も専門的要素はあった。

教育長 それでは総合的に判断して、保健体育は東京書籍でよいか。

全員 よい。

教育長 保健体育は、東京書籍に決定する。

教育長 続いて技術・家庭、技術分野について検討する。事務局から説明をお願いします。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「興味・関心を高めるための工夫として、課題の設定が最も充実しているとともに、自分が学習したことを評価・活用する内容もあるため、最も主体的に学習できる工夫をしている。また、情報セキュリティや情報モラルについても詳細に説明している。さらに自分の発表などについても評価をもとに、振り返りをするようになっており、言語活動の充実が期待できる。以上の理由で、総合的に判断して開隆堂が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会の提案は開隆堂だが、どうか。

○ 私も開隆堂が馴染みやすい気がするし、写真や図がきれいだと思う。材料の加工に関する技術や学習の流れも丁寧に示してあると思った。

教育長 他にどうか。

○ その点で言うと、東京書籍はちょっと理屈っぽいかなという気がする。

○ 技術分野は3社だが、教育図書はどちらかというと今一步という感じがした。あとは開隆堂と東京書籍ということで比べてみたが、どちらも一長一短ある。客観的に

見たとき、例えば、ぱっと表紙を見たときには、開隆堂がいい感じを受ける。全体のバランスもよい。全体としても、開隆堂は小学校からの繋がりがきちんとできている。一方で、東京書籍も分かりやすくて、生徒の様子がたくさん出ている。しかも伝統文化を取り上げたまとめ方は、東京書籍の方がパターン化していて分かりやすい。あとはジャンル別に見ると、材料と加工、エネルギー、生物技術、情報、巻末というところを見たが、あまり差はなかった。東京書籍が1つ特徴的なのは、生物技術のところでは匠の紹介があった。ページ数で言えば、情報の単元が多かったのは開隆堂である。振り返りや自己評価については、どちらもAからCの3段階評価で、あまり差はない。実習例は東京書籍がやや多かった。特にこれだからこれにというのは思わない。若干、要素とすれば東京書籍がいいと思うが、選定委員の理由も含め、先ほどの情報セキュリティの関係で言えば、開隆堂がいいとも思う。

○ 私は、中身的に言えば先ほどから話があるように実は2社である。ただ子供たちの状況や、ある学校の技術の先生を思い出したときに、東京書籍は子供たちがとてもワクワクしてページをめくれるし、よく分かるように文章が書いてある。ちょっとめくってもらえると分かるが、開隆堂はとても字が細かい。技術の時間はかなり少なくなっていると思うが、これだけの内容を見ていると目がしばしばする。

○ 確かに開隆堂はエネルギーのところの文字が多くて読みにくい。私もこれは同じ思いである。数えたら10ページ少ない。だから凝縮して文字が小さいのか。工程からすれば東京書籍の方がまとまっていて分かりやすい。技術は総合判断をすれば東京書籍が分かりやすい。生徒の様子がよく出ている。

総合的に見たときには、若干文字が多くて読みにくいというのはあるが、生徒の様子などは東京書籍が優れている。

○ ぱっと目を通した感じで言えば、技術も家庭科も開隆堂が一番だと思った。もう1つ引っかかったのは、一番最初に技術・家庭を見たので、東京書籍は版が大きいこと。大きいだけ丁寧に図が説明してあるが、大きいのは持ち運びが大変だと思う。

教育長 東京書籍と開隆堂のいいところが出ているが、選定委員会の理由にあるように、課題設定や主体的な学びのための工夫点、それから情報セキュリティなどが充実していることなどから、技術分野は開隆堂でよい。

全員 よい。

教育長 技術・家庭、技術分野は、開隆堂に決定する。

教育長 続いて技術・家庭、家庭分野について検討する。事務局から説明をお願いします。

事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「学習内容の定着を図るため、資料や解説、他教科との関連を分かりやすく表記するとともに、学習内容をもとにさらに探究することを目指した内容である。また、持続可能な社会に関する内容が充実しており、各内容の最後に持続可能な社会の実現に向けて考えることができるページを設定している。以上の理由で、総合的に判断して開隆堂が最も適している。」審議をお願いしたい。

教育長 選定委員会は、開隆堂を案として出している。意見ををお願いします。

- 教育図書はちょっと馴染みがないかなと思った。そうするとあとは東京書籍か開隆堂ということになる。特徴を見たとき、東京書籍は非常に見やすい。食事、食生活が充実している。伝統野菜もある。写真が充実しており、手順が分かりやすい。食事、家族、食生活も充実しており、ごみを少なくするようなグラフもある。開隆堂にない、幼児のおやつ作りも入っている。一方で開隆堂は単元の展開がまず家族から入っている。要するに構成が全く違う。食生活からではなく、家族から入っている。これは特徴である。あとは食事、デザートが東京書籍にはなくて、開隆堂にはある。おせち料理も開隆堂にはある。以上の点が若干違う。あとは展開の仕方がどうか。
- 下ごしらえや盛り合わせは、3つを見比べて東京書籍がよい。
- 開隆堂の特徴は家族から入っているところ。ここは捨て難いところ。実は家族が家庭科の本来の本元。しかし、中身の充実はトータルで言えば東京書籍。
- フェアトレードは両方扱っているか。
- 東京書籍にはわりと詳しく載っているが、開隆堂は扱いが少ない。
- 今まではどちらを使っていたか。
- 開隆堂。
- 見やすい方だったら東京書籍。また、幼児のおやつ作りがある。開隆堂にはない。子供たちは、おやつ作りは最も関心があるところだと思う。
- 弁当作りは。
- 両方ある。弁当作りはどちらが充実しているか、それも1つのポイントである。
- おせちは東京書籍にはない。
- 技術と家庭は同じ会社でなくてはいけないのか。
- 事務局 そういうことはない。過去、異なっていたときもあるが支障はない。
- 家庭科は週に何時間ぐらいあるか。
- 事務局 技術・家庭で1・2年が週2時間で3年は週1時間。
- 技術と家庭は別に設けてあるのか。
- 事務局 技術と家庭の時間は別々。1時間ずつ行ったり、隔週で2時間続けて行ったりする。学校によって運用は様々である。
- ぱっと見て生徒が分かりやすく勉強してみようという気になる方がいい。そういう点で言えばこういう字が小さいのはどうか。
- 東京書籍でどうか。分かりやすいのは東京書籍。
- 現場の声を聞かせてほしい。
- 教育長 どうか。
- 事務局 特に問題ないと思う。先生も違うし、関連性もない。
- 最初の導入部分があって、今から学習するというのを説明してあるのが東京書籍である。開隆堂はそれほど詳しくない。
- 教育長 それでは、家庭分野はいろいろ意見を出し合ったが、理解しやすく内容が充実している東京書籍でよいか。
- 全員 よい。
- 教育長 技術・家庭、家庭分野は、東京書籍に決定する。

- 教育長 最後に、外国語（英語）について検討する。事務局から説明をお願いする。
- 事務局 選定委員会の総合所見は次のとおりである。「小学校外国語活動からの接続を工夫しているとともに、学習内容においては4つの領域のバランスがよくとれている。また、問題演習をしたり、自らの学びを振り返ったりすることもできる。また、主体的な学びを目指すために問題解決的な学習ができるテーマが最も充実している。以上の理由で、総合的に判断して東京書籍が最も適している。」審議をお願いしたい。
- 教育長 選定委員会は東京書籍を案としている。意見を願う。
- 基本事項を大切に扱っていて、なおかつ基礎基本を活用する場を工夫していく必要があると考えて選定した場合、そのために学習したことを活用する場面設定がある教科書といったときにはどうかということを見る必要がある。私は3社がよいと思っている。1つは基礎基本の徹底を図ろうとする東京書籍。一方でその基礎基本をより実践力に繋げるための工夫が多くされている開隆堂。もうひとつは活用する力を意識し、あるいは各単元に付けたい力を明らかにしているなどと考えられる光村図書。この3社がどうかと思う。
- まず、東京書籍は、基礎基本の徹底がバージョンアップしているという点はあるが、ワークブックのような構成内容が若干あり、教科書としてはどうなのかという思いがした。
- 開隆堂は、文法事項などの分かりやすい説明があり、「読む」「書く」「聞く」「話す」の各技能を意識した練習問題が豊富にある。あるいは生活で幅広く使えるようになるための活動があって、多くの場面設定があり興味が引かれるのではないかな。従って問題解決的な内容で興味が湧くような工夫がされている。何よりも大きな特徴は、目標とゴールの見える化というか、英語でできるようになったことで「CAN DO」リストが開隆堂にはある。他社で言えば教育出版にもある。そういうのが学習意欲にも繋がるのではないかな。巻末には英語でできるようになったことというリストで目標をもたせるようにして、生徒が分かりやすくなっている。これが開隆堂の特徴である。
- 光村図書の場合は、活用する力を意識して、各単元で付けたい力を明らかにしているし、文法あるいは文構成の丁寧な解説もある。それから、スキットタイムということで、活用を意識した内容が盛り込まれている。あるいは、読み物教材の充実や、日本のことや歴史を考える作品もある。また、東京書籍にもあるが、小学校の学習を思い起こすような「がまくんの手紙」が取り入れられている。そういう工夫がある。これも開隆堂と同じように目指すゴールの達成を明確にしてある。さらに討議ができるような題材の工夫がある。あるいは身近な話題についての表現力、思考力の効果的なものが盛り込まれていると思う。
- 一言で言えば、基礎基本を徹底的にやる東京書籍か、活用編を少し重んじてやる開隆堂か光村図書かということになる。選定委員会は、小学校からの接続をバランスよくやっているのは東京書籍で、主体的な学びを目指す問題解決的な学習もあるという分析をし、身近な挨拶や身の回りの扱い、4領域のバランスがよいのは東京書籍であるとしている。

- 県の選定資料195ページに、各学年の4領域等の言語活動の設定数というのがあって、「聞く」「話す」「読む」「書く」のバランスをどう考えるのかということだが、その数字を見ると、東京書籍は「聞く」102、「話す」89、「読む」150、「書く」103、その点で言うと開隆堂は「話す」144、東京書籍は89しかないが、開隆堂は144で、その他で言うと教育出版は「話す」が146ある。それを見ると東京書籍は「話す」が少し少ない。しかし英語で言うと、読んだり話したり書いたりする中で、たぶん子供は書くのが苦手だと思う。その辺のバランスや、文法ばかり教えてもどうかとも思う。文法で言うと現在完了形というか過去分詞をどう扱っているか調べた。東京書籍は現在完了形という形ではなく、過去分詞として説明してある。開隆堂は大変詳しく、丁寧に分かりやすく説明してある。学校図書は詳しいが、どこへ記載してあるか目次から探そうと思うと探せない。三省堂も見つけたら詳しく書いてあるが、目次からどこへそのことが書いてあるかというのは、見つけるのが大変難しい。日本語でそういう説明がしてない。教育出版については大変簡単に説明してある。光村図書は大変詳しく説明してある。文法についての記述はどうか。分からない面があるが、4領域のバランスと文法。各教科書とも、教材数で言えばやはり違っている。

教育長 どうか。

- 基本に重点を置くのであれば、東京書籍のニューホライズン。発信する力を身に付けたいと思えばサンシャイン。

- サンシャインはどこか。

- 開隆堂。

教育長 庄原市内の子供の実態はどうか。この4年間に渡っての分析はどうか。

事務局 基本的な力は付いてきていると思うが、活用する力というところで十分に力が付いていないのが課題だと考える。

- 少し話題になったのが、教師が使いこなせるかどうか。教師の問題を出したらどの教科書も選定が難しくなる面があるが、そこはどうか。教師の指導力で変わるものがある。

事務局 言われたように、先生たちにとっては東京書籍が安心感があると思う。それは、これまで使ってきているし、基礎基本というところで辿っていくと、求められる力が付くような仕組みにはなっている。さらに活用する力というところで、教科書プラスという場面を設定していくかということに、先生たちにはこれまで課題があったと思うが、そういうところについてみると、開隆堂は具体的にいろいろな場面設定が提示してある。

教育長 「CAN DO」リストで、ここは英語でできるなという目標やめあては、東京書籍は明示してないのか。

事務局 巻末にある。

- 今、コミュニケーションでは、話すということが割と必要だと思う。開隆堂は、コミュニケーション能力を活用して話すということを東京書籍よりは重視しているし、ペアやグループ会話等の活動がいろいろ多く設定してあるという気がした。どちらも学ぶ内容は着実に分かるように編集してある。開隆堂は大変詳しく丁寧に分か

りやすく説明してある。

- 先生方も最近、そういったコミュニケーション能力を養うということで、ここにはないような場面設定をニューホライズンの中でしているという場면을授業で見たことがあるし、その辺は工夫をされていると思うが、いろいろなシチュエーションを設定できる可能性を含んでいるのはサンシャインかもしれない。しかし、割と時間が足りないような感じがした。基礎基本も生徒にきちんと習得させるのに時間がかかっている感じがするので、そういったところでは消化不良になる可能性がサンシャインではあるかと思う。基礎基本がやっとで、そんな感じがする。基礎基本を徹底させているのは分かるけども、それ以上の展開はコミュニケーションすること。ペアワークやグループワークでされているが、それが定着しているかどうかは分からない。だからシチュエーションや場面設定を何本も入れてやっても、消化不良にならないかなという心配はある。今までどおり基礎基本で、もうちょっと文法的なところをしつかりやって、というところでがんばってもらった方がいいのかと思う。その辺は生徒の実態や状況もあるので、悩むところである。

- 課題と直面させようと思えば、開隆堂がいいかもしれない。

- ニューホライズンは何年目か。

事務局 今は2サイクルである。

- 2サイクル8年採択している。24年度に選んだときには東京書籍だった。その前は何だったのか。

事務局 その前も東京書籍で、その前が光村図書。

- 光村図書の時代もあった。今、英語の基礎基本の部分について、本市の実態は若干上昇気流である。中学校の英語教員の研修も積極的で、成果を出しつつある。

- 例えば関係代名詞の文法の説明の仕方も、開隆堂がより分かりやすいと思う。

- 小学校との接続というか、その辺を割と意識して入りやすいのは開隆堂かなという気がするが、多少最初は難しいところもある。

- 語彙数を確認してないが、どちらが多いのか。ニューホライズンと。

教育長 どちらの語彙数が多いのか。調べてあるか。語彙数の資料はないのか。

- 大体は決まっていると思うが。

- 大体1,200ではないのか。

- リーディングの面で、ちょっと新しい発展的な数があれば、ちょっと違うかなと思う。

- 語彙数は大体同じではないか。極端に差があるのか。

- 大きな差はない。

- 大体1,200程度。中学校の単語は。どうか。

事務局 扱う会社によっては違っている。

教育長 どうするか。基礎基本に力を入れている東京書籍か、活用を多くやっている開隆堂かということになる。開隆堂にしたら分からないところが増えるだろうか。

事務局 基本は押さえてあると思う。文法もそうである。

- 文法は開隆堂が分かりやすい。

- 開隆堂もしっかり指導や学習ができるようになっている印象である。
 - 文法は丁寧にしてある。
 - 単語は東京書籍が少ない。
 - ちょっと物足りない感じがある。ニューホライズンはどうか。
- 教育長 それでは、いろいろ意見が出たが、総合的にみて英語は開隆堂でよいか。
- 全員 よい。
- 教育長 外国語（英語）は、開隆堂に決定する。
-
- 教育長 それでは最後にもう一度確認する。
- 国語は東京書籍、書写が教育出版、社会（地理的分野）が東京書籍、社会（歴史的
分野）が東京書籍、社会（公民的分野）も東京書籍、地図は帝国書院、数学は東京書
籍、理科は啓林館、音楽（一般）が教育出版、音楽（器楽合奏）も教育出版、美術は
光村図書、保健体育は東京書籍、技術・家庭の技術分野は開隆堂、技術家庭の家庭分
野が東京書籍、外国語（英語）は開隆堂。
- 以上、検討したとおり、議案第47号「平成28年度使用中学校用教科用図書の採択に
ついて」採決を行う。賛成の委員は、挙手をお願いします。
- 全員 （挙手）
- 教育長 全員賛成なので、議案第47号「平成28年度使用中学校用教科用図書の採択につい
て」は、採択された。
- 事務局 長時間にわたり、慎重にご審議いただきありがとうございました。
- なお、9月上旬に、県内全採択地区の採択結果が公開される予定です。それまで
は、守秘にご配慮をお願いいたします。